

# 生活苦増える相談

## 沖繩命の電話 活用呼び掛け

今年2月に設立された「沖繩命の電話」(栗國彰代表理事)が、新型コロナウイルスの感染拡大で経済的に困窮したり、生活に不



安を抱えたりしている人たちの支援に力を入れている。理事の5人が17日、事務局を置く那覇市の龍門寺で会見し、「二人で悩まずに電話相談を活用して」と呼び掛けた。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、失業や収入減、家庭内暴力などの悩みが増えている。2月の相談者数は2人だったが、3月は8人、

電話相談を受け付けている「沖繩命の電話」の理事ら17日、那覇市首里保良町の龍門寺

4月は22人と急増。5月に入り、面談を控えていた女性が増えるケースもあった。栗國代表理事は「仕事がなく、死にたいと悩んでいた。助けてあげたかった」と悔やむ。

理事で龍門寺住職の比嘉門雄山さんは「感染者数の増減に目を向けが良かったが、苦しくても相談できない人がたくさんいることに目を向け、助けられる社会にしたい」と話した。

栗國代表理事らは5年ほど前から活動をしてきた。メンバーは人材派遣業や不動産業、保護司やベビースタッフなどが本業。「それぞれのつながりを生かして必要な支援先につなげた

い」としている。

フエイズラックや龍門寺のホームページから活動内容などを確認できる。連絡先は比嘉門住職、電話090-1946-6924。